

日蓮大聖人御書全集

みよういちあまごぜんごへんじ

妙一尼御前御返事

新版
1697

みよういちあまごぜんごへんじ

妙一尼御前御返事

こうあん ねん がつ さい みよういちあま

弘安3年('80) 5月 59歳 妙一尼

そ しんじん もう べつ そうろう め 夫 惜

夫れ、信心と申すは別にはこれなく候。妻のおとこをお

夫 め いのち 捨 おや こ

しむがごとく、おとこの妻に命をすつるがごとく、親の子

捨 こ はは 離

をすてざるがごとく、子の母にはなれざるがごとくに、

ほけきよう しゃか たほう じつぽう もろもろ ぶつぼさつ しょうぜんじんとう しん

法華経、釈迦・多宝、十方の諸の仏菩薩、諸天善神等に信

い たつまつ なんみようほうれんげきよう とな しんじん

を入れ奉って、南無妙法蓮華経と唱えたてまつるを、信心

もう そつろう しようじき ほうべん す

とは申し候なり。しかのみならず、「正直に方便を捨つ」

よきよう いちげ きようもん おんな 鏡 捨

「余経の一偈をも受けず」の経文を、女のかがみをすて

おとこ 差
ざるがごとく、男の刀をさすがごとく、すこしもすつる

こころ

あん たも

そうろう

心なく案じ給うべく候。あなかしこ、あなかしこ。

ごがつじゆうはちにち

五月十八日

にちれん

日蓮

かおう

花押

みよういちあまごぜんごへんじ

妙一尼御前御返事